

1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月24日

【評価実施概要】

事業所番号	1275900122
法人名	医療法人社団慈優会
事業所名	グループホーム日の出
所在地	〒283-0104 千葉県山武郡九十九里町片貝2582-9 (電話) 0475-70-7878

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年12月21日	評価確定日	平成20年3月20日

【情報提供票より】(19年12月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 5人, 非常勤13人, 常勤換算4人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000円	その他	食費54,000+水光熱7,000+実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)		有りの場合 償却の有無	経理課保管。退居時必要経費 を精算し残金は入居者に返還
食材料費	朝食	500 円	昼食	600 円
	夕食	700 円	おやつ	夕食代に含む 円
	または1日当たり 1,800 円			

(4) 利用者の概要(12月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.6 歳	最低	69 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団慈優会九十九里病院 千歯会訪問診療部
---------	--------------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

九十九里海岸にほど近い閑静な場所に位置し、広大な敷地に2ユニットの平屋建てホームである。道路を隔て、同法人の九十九里病院が隣接する。ホーム管理者と介護支援専門員は同病院から異動してきた職員で、医療に関する知識も多く、病院との連携も密である。医療に関する委員会活動は、ホームと病院合同で行われている。入居者は週5日、同病院のリハビリテーションを受診し、身体機能の維持に努めている。入院した場合は、ホームと医師とが連携し、早期退院できる体制が構築されている。入居者は安全で安心したサービスを受けており、病院と隣接しているというメリットを十分活かしたホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題は、運営推進会議や職員会議で協議し、改善を図っていることだが、改善経緯や結果の記録がなく、記録の作成や保存が望まれる。“個別具体的な介護計画”では、入居者の現状を踏まえたアセスメントを実施し、入居者本意の介護計画の作成に取り組んでいる。介護計画は、家族に説明し同意を得ており、その際、意見・要望などを聞き取り、介護計画や運営に反映している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の重要性を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。ホームの弱みを隠すことなく、取組みの事実として誠実に記述している。事実を真摯に受け止め、改善していこうという前向きな姿勢が伺える。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では、行政職員、入居者、家族、民生委員、ホーム関係者らが参加し、入居者の暮らしぶりや職員の異動、ホーム行事などの報告を行っている。外部評価の結果についても話し合い、改善に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営に対する家族からの苦情や不満はほとんど出ていない。家族会は組織されているものの活動はあまりない。今後、家族会のますますの活性化や意見箱の設置などを通じ、積極的な意見聴取が期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との連携は、管理者を中心に積極的に図られている。地域の祭礼、文化祭や地元小中学校の行事などに参加、見学している。近隣の小中学生が慰問やボランティアとして来訪している。さらに、地域の文化祭に入居者の貼り絵、習字、絵画などの出展を予定している。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者一人ひとりを尊重し、その人らしい暮らしを実現するため、ホーム独自の理念を“心と心の触れ合い・地域との連携”として、現場の声を大切に、サービスの質向上を目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットに文書化した理念を掲示し、常に職員が確認できるようにしている。管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り、理念の実現に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の祭礼、文化祭、小中学校の行事などに参加したり、小中学生が慰問やボランティアとして来訪したりするなど、積極的に交流している。地域の文化祭に入居者の作品の出展を目指している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の重要性や意義を理解し、全職員で評価に取り組んでいる。自らの強みだけでなく弱みをも隠すことなく、誠実に記述している。改善していこうという前向きな姿勢が伺える。		評価の結果を受け、どのように改善したか記録に残すことにより、検証も可能になり効果的である。職員教育の有効な手段ともなるため、記録の作成が期待される。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政、入居者、家族、民生委員、ホーム関係者らが参加し、入居者の生活状況や職員の異動、行事などを定期報告している。外部評価結果についても協議し、改善に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との関係は良好で、地域在宅の認知症老人の情報交換、地域行事、研修会などで連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の身体上の変化については、常に連絡している。毎月の便りで暮らしぶり、健康状態、金銭管理の状況、職員の異動などの情報を提供している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に対する家族からの苦情や不満はほとんど出ていない。家族会は組織されているものの、活動はあまりない。		家族の意見や苦情などは、業務を見直していくための重要な要素である。今後、家族会の活性化や意見箱の設置などを通じ、積極的な意見聴取が期待される。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事面は、法人からホームに権限が委譲されている。各ユニット間の職員異動は、介護力の均衡を保つため適宜行われるが、同一建物内での異動のため、入居者への影響は殆どない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加可能な外部研修には順次受講できるよう配慮している。救急救命講習は全職員が受講、万が一に備えている。内部研修では、母体の医療法人が行う感染症や医療に関する研修に参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県グループホーム連絡会に加入し、管理者が会議に必ず参加して研修や同業者の状況などの情報交換をしている。管理者は連絡会世話人を務め、認知症の理解促進のため精力的に活動している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者や家族と相談しながら見学、体験入居や一時帰宅を行い、入居者ごとに担当職員を選任し、安心感が得られるよう配慮している。不穏な状態時には傾聴し、一時帰宅などの個別対応も行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事の準備、片付け、洗濯、掃除など、入居者ができること、希望することを行っている。入居者の意思を尊重し、職員の都合を優先せずこれまでの経験談などに耳を傾けている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者はお寿司を食べたいという希望が多く、年2回全員で回転寿司を食べにでかける。意思表示が困難な入居者には個々に声かけし、意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入所直後は状態を把握するため介護計画をたてずに、経過観察しながら支援している。その後は月1度のカンファレンスで介護計画書を作成し、家族に説明をして捺印をもらっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状態変化のない入居者の介護計画書は6か月に一度見直している。急な変化が生じた場合は職員間で共有し、状態に合った支援を行っている。</p>	○	<p>変化が生じた場合は家族、職員の意見を取り入れ、速やかに介護計画書を作成し直すことが必要と思われる。安定している入居者でも、1～3ヶ月に一度はカンファレンス等を行うと更によいと思われる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体が医療法人で、24時間の医療連携がとられている。帰宅願望の強い入居者の一時帰宅の送迎や、小学生の体験学習の場にホームを提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専門科に通院が必要な入居者は、かかりつけ医での受診を支援している。家族の要望でかかりつけ医をホームの協力機関に変更した入居者もいる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の状態からその時期が近いと判断した時は、医師が家族に説明し、家族の要望を聞き、同意を得て、自然体での看取りができるよう支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	コミュニケーションの取り方は、個々に合った対応を行い、尊厳の重視を心がけている。しかし、地元出身の入居者や職員のやりとりには周囲が驚くことがあり、管理者が個々に注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールはおおよそ決まっているが、入居者の急な外出希望も最大限受け入れるなど、希望に沿った支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの根取りや食後の食器洗いなど、入居者ができることをやってもらっている。食事は職員も一緒にテーブルにつき、会話を楽しみながら食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の健康状態を把握し、入浴を支援している。希望があれば毎日の入浴も可能である。最低でも週2～3回は入れるよう声かけしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下準備、掃除、洗濯物たたみ、食器洗い、草取りや菜園作りなど、入居者が積極的に活躍する場面作りをしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物のほか、入居者が外出したい時には、たとえ一人の希望であっても出来る限り要望に応えられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のドアはタッチ式の自動ドアで、入居者もそれを認識しており、出たいときは自由に入出入りできる状態になっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルが整備され、消防署の協力で年2回防災訓練を行っている。防災用計器の使用訓練も実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がカロリー計算し、制限のある入居者には個別に対応し、水分不足にも気をつけている。食材は業者宅配中心で、週2回はホームで献立を考えている。今後は宅配を止める方向で検討している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには畳のコーナーを設け、ソファもあり、自由にくつろぐことができる。廊下はゆったりと車いすのすれ違いも可能である。居室の温度は調度良く、夏場はカーテンで調節している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者は個々に使い慣れた家具を持ち込み、安心して暮らせるよう工夫している。居室の清掃も、可能な入居者は職員と共に行うなど、清潔保持に努めている。		